

**製品名: NFATc4 (リン酸化Ser168/S170) ウサギポリクローナル抗体**

**カタログ番号: APRab05087**

研究使用のみ

## 概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

## 応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	140kDa

## 抗原情報

遺伝子名	NFATC4
別名	NFATC4; NFAT3; Nuclear factor of activated T-cells; cytoplasmic 4; NF-ATc4; NFATc4; T-cell transcription factor NFAT3; NF-AT3
遺伝子 ID	4776.0
SwissProt ID	Q14934
免疫原	抗血清は、Ser168 と Ser170 のリン酸化部位周辺のヒト NFAT3 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 136-185

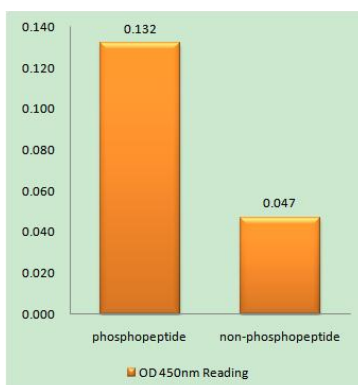
## 背景

この遺伝子は、活性化T細胞核因子 (NFAT) タンパク質ファミリーのメンバーをコードしています。コードされているタンパク質は、DNA 結合転写複合体の一部です。この複合体は、少なくとも2つの成分、すなわちT細胞受容体刺激によって核へ移行する既存の細胞質成分と、誘導性の核成分から構成されています。NFAT タンパク質は、カルモジュリン依存性ホスファターゼであるカルシニューリンによって活性化されます。コードされているタンパク質は、T細胞におけるサイトカイン遺伝子の誘導発現、特にインターロイキン-2 およびインターロイキン-4 の誘導に関与しています。選択的スプライシングにより、複数の転写バリエーションが生じます。[RefSeq 提供、2014年1月],ドメイン:Rel類似性ドメイン (RSD) は、DNA 結合および AP1 因子との協調的相互作用を可能にする。機能:T細胞におけるサイトカイン遺伝子の誘導発現、特に IL-2 および IL-4 の誘導に役割を果たす。転写はエストロゲン受容体によって抑制され、この阻害はエストロゲンによってさらに増強される。PPARG の転写活性を高め、脂肪細胞分化に直接的な役割を果たす。筋管分化に重要な役割を果たす可能性がある。心臓の発達と肥大に決定的な役割を果たす可能性がある。感覚ニューロンの脱求心性誘導性アポトーシスに役割を果たす可能性がある。PTM:NFATC キナーゼによってリン酸化され、カルシニューリンによって脱リン酸化される。FRAP1、IRAK1、MAPK7、MAPK14によってSer-168とSer-170がリン酸化され、MAPK8とMAPK9によってSer-213とSer-217がリン酸化され、RPS6KA3によってSer-289とSer-344がリン酸化されます。GSK3Bによってリン酸化されます。PTM:ユビキチン化され、プロテアソームによる分解と転写活性の低下につながります。ユビキチン化と転写活性の低下は、GSK3B 依存性リン酸化によってさらに促進されます。ポリユビキチン結合は主に「Lys-48」を介して行われます。類似性:1つのIPT/TIGドメインを含みます。類似性:1つのRHD (Rel様)ドメインを含みます。細胞内局在:リン酸化型は細胞質内に、カルシニューリンを介した脱リン酸化によって制御される活性化後は核内に存在します。NFATC が速やかに核から排出されることは、細胞が持続的なカルシウムシグナルと一過性のカルシウムシグナルを区別するメカニズムの1つであると考えられています。NFATCの細胞内局在は、遺伝子転写の調節において重要な役割を果たしています。サブユニット:多成分 NFATC 転写複合体のメンバーで、少なくとも2つの成分、既存の細胞質成分 NFATC2 と誘導性核成分 NFATC1 から構成されます。NFATC4、NFATC3などの他のメンバーや、活性化タンパク質1ファミリー、MAF、GATA4、Cbp/p300のメンバーもこの複合体に結合できます。NFATC タンパク質はモノマーとしてDNAに結合します。CREBBP、GATA4、IRAK1、MAPK8、MAPK9、RPS6KA3と相互作用します。組織特異性:胎盤、肺、腎臓、精巣、卵巣で高発現海馬で検出されました。

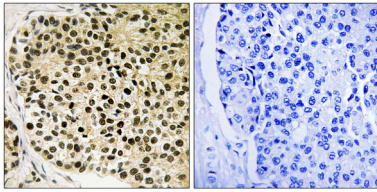
## 研究分野

MAPK\_ERK\_Growth;MAPK\_G\_Protein;WNT;WNT-T CELL 軸索ガイダンス;VEGF;ナチュラルキラー細胞を介した細胞傷害性T細胞受容体;B細胞抗原;

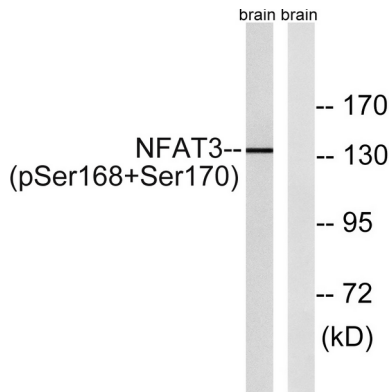
## 画像データ



NFAT3 (リン酸化 Ser168+Ser170) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



NFAT3 (リン酸化 Ser168+Ser170) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



NFAT3 (リン酸化 Ser168+Ser170) 抗体のウェスタンブロット解析。右レーンには NFAT3 (リン酸化 Ser168+Ser170) ペプチドでブロッキングされている。